

「咸宜園から文化遺産を考えよう」(第4学年)

奈良教育大学教職大学院 島俊彦

1. ESD を生かした授業づくり

(1) 単元名 「咸宜園から文化遺産を考えよう」 小学校第4学年

(2) 単元の概要

本単元は茨城県水戸市の「弘道館」、栃木県足利市の「足利学校」、岡山県備前市の「閑谷学校」などと連携して、「近世日本の教育遺産群」の構成資産として世界遺産登録を目指す、大分県日田市の「咸宜園」を取り上げ、文化遺産の価値や受け継がれてきた思いを、未来に遺していくことの大切さを考えたり、「自分たちにできること」を発信したりする学習を通して、持続可能な社会の担い手としての資質や価値観、その実践力を身に付けることねらいとしている。

咸宜園は、儒学者である広瀬淡窓によって文化十四年(1817年)に創立された私塾であり、江戸時代を通じて最大規模を誇る私塾であった。『咸宜「咸(ことごと)く宜(よろ)し』とは、すべてのことがよろしいという意味で、門下生一人ひとりの意志や個性を尊重する教育理念が塾名に込められている。門下生は5000人を超えと言われており、全国68カ国の内、下野・甲斐・沓岐・大隅の4カ国を除く64カ国から入門者が集った。彼らは咸宜園を巣立った後、郷里で咸宜園や淡窓から学んだことを伝えていき、儒学者や教育者、医者、政治家など多岐にわたる分野で活躍した。

咸宜園に全国から門下生が集まり、江戸時代において最大規模の私塾となった主な要因は、塾首である淡窓自身が長年にわたる教育実践を通して工夫を重ね、改良を加えて創り上げた教育システムにあると言われている。身分や階級制度の厳しい時代にあって、入門時に学歴・年齢・身分を問わない「三奪法」により、全ての門下生を平等に教育すると共に、月の初めに門下生の学力を客観的に評価し、成績により席次を決める「月旦評」と呼ばれる制度を設けた。そのほかにも、「治めて後、学ばせる」という観点から、規則正しい生活を実践させる「規約」や、門下生に塾や寮を運営させる「職任」などにより、門下生の学力や能力を高めるのみならず、人間性や社会性を身に付けさせる教育を行った。

日田市では、これまでも文化財保護の立場から、学校教育の中で咸宜園に関する学習を位置付けてきた。近年では、2007年に日田市教育行政実施方針の中で、市内小中学校において「広瀬淡窓と咸宜園」について学ぶ機会を設けることが明記され、2012年度の改正でも咸宜園教育の理念を生かした学校経営の推進が記されている。このように日田市では咸宜園教育の理念を生かした特色ある学校経営がなされ、市内の児童や生徒は学校生活の中で咸宜園や広瀬淡窓について学習する機会が与えられている。

本単元でESDの視点を生かした学習指導を進めるにあたっては、咸宜園や広瀬淡窓の業績が今の自分たちや日田市民の生活と深くつながっていることに気づかせたい。その上で、咸宜園の価値や受け継がれてきた思いについて探究させると共に、自ら力で発見させたい。

また、自分達の地域に誇るべき文化遺産があることに気づかせると共に、その価値や受け継がれてきた思いを未来に伝えていく【公平性】ために「自分たちにできること」を一人一人に具体的に考えさせ、発信していく場を設け、咸宜園を未来に遺していくのは自分達であるという当事者意識を持たせたい【責任性】。

以上のような学習を通して、文化遺産を遺していくことの大切さや、その実践力を身につけさせたいと考える

(3) ESD の視点の明確化

【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念IV 公平性…咸宜園の価値や受け継がれてきた思いを、将来世代にも遺していくこと。

構成概念VI 責任性…咸宜園の価値や受け継がれてきた思いを、未来に遺していくのは自分達であるという当事者意識を持ち、その責任を自覚すること。

2. ESD の視点を生かした授業の実際

(1) 単元の目標（重視する能力・態度）

《関連》

咸宜園と自分達の生活とのつながりについて関心を持ち、咸宜園の価値や受け継がれてきた思いを、未来に遺していくために「自分たちにできること」を考え、行動しようとする。

【関心・意欲・態度】

《未来》

咸宜園の価値や受け継がれてきた思いを、未来に遺していくために「自分たちにできること」を考える。

【思考・判断・表現】

《伝達》

咸宜園の価値や受け継がれてきた思いを、未来に遺していくために「自分たちにできること」を、他者に分かりやすく伝えることができる。

【技能】

《多面》

咸宜園の価値や受け継がれてきた思いがわかる。

【知識・理解】

(2) 評価規準

関連 関心・意欲・態度	未来 思考・表現・判断	伝達 技能	多面 知識・理解
咸宜園と自分達の生活とのつながりについて関心を持つ。	咸宜園の価値や受け継がれてきた思いを、未来に遺していくために「自分たちにできること」を考える。	咸宜園の価値や受け継がれてきた思いを、未来に遺していくために「自分たちにできること」を、簡潔にまとめ他者に分かりやすく伝えることができる。	咸宜園の価値や受け継がれてきた思いがわかる。

(3) 単元の計画 (全5時間)

時	主な学習活動と内容	◇教師の支援 ◆主な評価
1	<p>1. 咸宜園について知る。</p>  <p style="text-align: center;">日田市立淡窓図書館</p>  <p style="text-align: center;">日田市立咸宜小学校</p> <p>2. 咸宜園について、個人やグループで調べる。</p>	<p>◇「日田市立咸宜小学校」「日田市立淡窓図書館」などの名前を伏せた写真から、日田市民にとって咸宜園やその創立者である広瀬淡窓が、身近な存在であることに気づかせる。</p> <p>◇調べる際は、咸宜園教育研究センターの刊行物などの資料や、インターネットを活用させる。 ※授業時間を越えた学習活動として、保護者や地域住民などへのインタビュー(聞き取り調査)を行わせる。</p> <p>◆咸宜園と自分達の生活とのつながりについて、関心を持って調べようとする。《関連》</p>
2	<p>1. 調べたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広瀬淡窓が創立し、江戸時代後期には日本最大の私塾であったこと。 ・ 身分や年齢、学歴に関係なく誰でも入門できたこと。(三奪法) ・ 毎月の試験や生活態度によって級の上下が決められていたこと。(月旦評) ・ 塾の約束ごとが、たくさんあったこと。(規約)(職任) <p style="text-align: right;">など。</p> <p>2. 咸宜園が江戸時代を通じて日本最大の私塾となった理由について考え、話し合う。</p>	<p>◇生涯一度も九州を出たことのない広瀬淡窓が創立したにも関わらず、全国から入門者が集まったということをもとに考えさせる。</p> <p>◇児童の考えや意見を認めた上で、「広瀬淡窓と咸宜園」に記載されている「なぜ咸宜園を選んだのか」(pp127-130)」を引用し、その理由を紹介する。</p>

	<p>なぜ咸宜園が、全国から門下生が集まるような、日本最大の私塾になったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広瀬淡窓の存在 ・ 独特の教育(三奪法, 月旦評など。) ・ 門下生による紹介 <p>など。</p> <p>◆咸宜園の価値や受け継がれてきた思いがわかる。 《多面》</p>
3	<p>1. 咸宜園を見学する。(課外活動)</p>  <p>咸宜園に併設された教育研究センター</p>	<p>◇咸宜園教育研究センターの学芸員の方や来園者などから、咸宜園の価値や受け継がれてきた思い、世界遺産登録に向けた取り組みなどについて話を聞いたり、インタビューをしたりさせる機会を設ける。</p>
4	<p>1. 咸宜園には、どのような価値や受け継がれてきた思いがあるのかについて話し合う。</p> <p>咸宜園を未来に遺していくために、「自分たちにできること」を考えよう。</p> <p>2. 今日まで遺ってきた咸宜園の価値や受け継がれてきた思いを、未来に遺していくために「自分たちにできること」を考える。</p>	<p>◇理想と共に、児童が実施可能な具体的行動について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレットやポスター, PR 動画を作る ・ 他者に、その保護をうったえる <p>など。</p> <p>◆咸宜園の価値や受け継がれてきた思いを、未来に遺していくために「自分たちにできること」を考えている。《未来》</p>
5	<p>1. 他学年の児童や保護者, 地域の方などを招き, 前時に考えた「自分たちにできること」を発信する。</p>	<p>◇プレゼンテーションの仕方や, ICT の活用の仕方を学ばせる。</p> <p>◆咸宜園の価値や受け継がれてきた思いを, 未来に遺していくために「自分たちにできること」を, 簡潔にまとめ他者に分かりやすく伝えている。《伝達》</p>